

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	乗用車販売店 （営業担当）	販売量の動き	・7月は、軽自動車届出実績・受注実績共に前年比120%を超えているが、客の動きは不安定である。ガソリン価格の高騰により燃費の少ない軽自動車への移行は拡大している。
		その他専門店 〔酒〕（経営者）	来客数の動き	・今年の夏は猛暑であり、飲料もたくさん出ている。現在はお中元時期で、客数も増えている。
		タクシー運転手	単価の動き	・夏休みに入り、タクシー利用が増えてきている。各種催し物が企画されているので、売上増加が期待できる。
	変わらない	百貨店（売場担当）	販売量の動き	・7月は夏物処分月であり、セールに入って購買は上がってきたが、盛り上がりは今一つでまとめ買いも少ない。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・客の買物単価が下がっている。
		家電量販店（営業担当）	お客様の様子	・猛暑続きで、エアコンの台数は予想以上に伸びている。しかし、中身については、チラシ商品を含め、価格が標準的なものがほとんどを占める。7月はほとんどが買い換えであり、新築を含め新規の取り付けは少なかった。
		乗用車販売店（従業員）	単価の動き	・自動車点検には6か月、12か月があるが、「お金がない」という理由で6か月点検を受けない人がかなり増えている。
		乗用車販売店（従業員）	お客様の様子	・ガソリン価格の高騰、食料品の値上げ等により高額商品の購入は慎重になっている。
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・全体的に良くない状況にあるが、急に落ち込むということではない。7月に限っては、前年より少し売上が伸びているという状況である。
旅行代理店（従業員）		販売量の動き	・夏休みを利用した海外旅行は、燃油サーチャージの影響により低調だが、国内では首都圏のテーマパーク、京阪神地区近郊の旅行に人気がある。東京へのホテルパック商品、航空券は順調に推移している。	
タクシー運転手		来客数の動き	・いろいろな物が値上がりするなかで、タクシーを控えている人が多い。夜は飲みに出る人が減っているため、全体の乗車回数も減っており、売上はあまり伸びない。	
通信会社（支店長）	お客様の様子	・原油価格高騰等によって物価の上昇が影響し、個人消費の増加が一服している。		
やや悪く なっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・大変暑い日が続き、日中の人出がほとんどない。土曜夜市、夏祭り等、夜のイベントにはたくさんの人が出てくるが、日中は、来街客が少ない状態である。夏休みになってからも、同様の傾向が見られる。	
	百貨店（営業担当）	それ以外	・前年同月に比べ売上及び来客共に下回った。ファッション関連商品・ブランド商品群・宝飾品等が苦戦し、中元商戦は前年並みに推移した。	
	スーパー（店長）	来客数の動き	・客数が減少している。消耗雑貨や加工食品は価格が安い店で購入しており、ガソリン価格の高騰により買物頻度を減らしている。売上は、惣菜、米などの食品が好調であるが、全体では肉、魚、加工食品、雑貨の不調でやや悪くなっている。加工食品については、値上げに伴う特売減の影響が出ている。	
	スーパー（企画担当）	お客様の様子	・郊外大型店の車での来店客数を考えると、ガソリン価格の高騰が影響し始めている。道路交通量も以前より少ない。	
	スーパー（財務担当）	単価の動き	・食料品は、ほぼすべての分野で価格が上昇している。	
	コンビニ（エリア担当）	それ以外	・家計にも原料高、原油高の影響が入ってきている。昼食は、外食から弁当へ、そして、弁当1個の購入も厳しく、100円のパン2個で昼食を済ませるような販売動向がみえてきている。	

	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・7月はバーゲン月であり、第1週の土曜日からスタートしたが、本来不況期は、値を下げたときには来店客が多いが、今年に関しては、スタート早々、結構厳しい状態となり、それが後半の半ばまで続いた。最後の週になって、再値下げしてバーゲンをしたところ、意外に良く、7月はほぼ、前年と同じくらいのところで終わった。
	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・今年の夏のバーゲンセールでは圧倒的に1点買いの客が多い。中旬以降の再値下げになってから、一段と客足が鈍っている。7月だけでも前年を下回るペースで推移しているが、前年セールが今年より1日早い6月30日からスタートしていることを考え合わせると、実質10%を超えるマイナスになる。
	家電量販店（店長）	販売量の動き	・客単価は前年並みを維持しているが、客数が非常に減少している。
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・夏のボーナス期を迎えたが、販売量に変化が見られない。
	乗用車販売店（管理担当）	販売量の動き	・ボーナス時期は過ぎたにもかかわらず、売行きはさっぱり駄目である。
	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・ガソリン価格など諸物価の高騰により、外食を控えている。酒屋の話では、「国道口のファミリーレストランでは売上が激減している」とのことである。
	一般レストラン（経営者）	販売量の動き	・産地偽装などでうなぎの数量が激減した。国内産の単価は前年より約4割上がっているが、数量は大幅に下っているためカバーできない。
	都市型ホテル（経営者）	単価の動き	・販売単価の低迷に加え、来客数自体も減ってきている。高知では、消費傾向が高かったのだが、最近では、個人消費にかなり陰りが出てきた。
	通信会社（総務担当）	お客様の様子	・購入時に熟慮する客が増えた。
	通信会社（管理担当）	販売量の動き	・店舗の来客数も減少傾向にあり、特に新規需要に関しては市場が縮小している。
	ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・平日の利用客、予約状況共に、前年に比べて少ない。
	競艇場（職員）	販売量の動き	・場内の一部が工事中で開催日数が減少していることを割り引いても、来客数、売上共に伸びは鈍い。
	設計事務所（職員）	競争相手の様子	・仕事の受注活動において、低価格競争が一層激化し、採算性が悪化しており、廃業する企業も出ている。所得は上がらないが、諸物価、特にガソリンや紙代、一部の食品等の価格高騰により、企業及び家庭においてもコスト増となっている。
悪くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・接客しても家計が厳しいという話しか出てこない。
	一般小売店〔乾物〕（店員）	販売量の動き	・お中元の時期であるが、売上が少ない。
	一般小売店〔書籍〕（営業担当）	お客様の様子	・ガソリン価格の上昇に伴い、郊外店に来店する車が大きく減少した。また、生活必需品を優先するため、本の購入を控える客が増えている。
	一般小売店〔酒〕（販売担当）	販売量の動き	・資本力を担保とした、ノックアウト方式のダンピング競争に突入しているが、価格競争に参入すると生活基盤が破壊されるため断念している。
	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・例年、松山では土曜夜市が賑わうが、今年は前年と比べて、車の通行量が少ない。
	スーパー（店長）	来客数の動き	・食料品の値上がりで、高い物が売れなくなったので、売上そのものが大変厳しくなっている。ガソリンが高くなるたびに、その傾向は顕著となり、高いガソリンを使って、遠くからは来ない。
	タクシー運転手	販売量の動き	・客に「給料は上昇したか」と聞いたところ、上昇したという人は1割、あとの9割は、下落および現状維持ということであった。
	観光名所（職員）	来客数の動き	・昨年よりもかなり来場者数は減ってきている。
	美容室（経営者）	単価の動き	・ガソリン価格の高騰などで家計を圧迫している状況が続いているため、消費が抑えられて客単価も低いままである。
	設計事務所（所長）	それ以外	・建設会社の倒産が続いている。

企業 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	木材木製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・住宅業界の全体としては、相当景気が悪い状況が続いている。特にマンションが足を引っ張っている。当社の場合は、各取引先は、順調に推移している。取引先によっては、いいところと悪いところの極端な差が出ている。
	変わらない	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・冷凍食品業界は中国産冷凍ギョウザ問題から、非常に売上が低迷しており、回復の見込みが今のところない。
		輸送業（役員）	それ以外	・原油価格の上昇により、省エネ運転をはじめコスト削減施策にも限界がきており、運賃価格転嫁が順調に進まないと、収益は極端に落ちてきている。
	やや悪く なっている	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・近くで製紙会社の大型物件の設備がある。これに対して、地元の企業として参入をしているが、単価が合わない。遠くから来ても、安くされるといことで、受注は思ったようにできない。やれば赤字というような物件が多い。仕事はしたいが、採算が合わない。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・民間工事も公共工事も少なく、ますます競争が激しく、受注量が全然伸びない。
		建設業（総務担当）	それ以外	・地場大手の建設業者が倒産した。今年に入って、ナンバー1とナンバー2が倒産したことになる。これは、低額入札で市場をかき乱していた無理な受注競争が原因である。
		通信業（営業担当）	それ以外	・大型量販店、スーパーのマネージャー等との会話の中で「今年の夏はここ2～3年の中で一番厳しい」「買い控え、購入時期の延期など個人消費が冷えている」「夏物衣料のバーゲンをしているが売り上げが伸びない、深刻な状況が続いている」などの話を聞く事が多い。
		通信業（部長）	受注量や販売量の動き	・商品の販売状況をみても4月よりも5月、6月と落ち込みが拡大しており、当月も引き続き状況の改善は見えていない。
		金融業（融資担当）	取引先の様子	・土建・建材業者で2社、廃業が出ている。原因は、このまま仕事を続けていても、原材料等の値上がり等により、利益が全くないためである。
		広告代理店（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・原材料価格の高騰が続いており、用紙の値上げも秋ごろに再度予定されており、売価に転換できない原価の上昇が抑えにくい状態である。
	悪く なっている	パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・原油価格の上昇が急激で、製品の価格修正が間に合わない。また、原油の上昇により、その他の諸資材が値上がりしている。
		一般機械器具製造業（経理担当）	それ以外	・西日本地区では、地場の土建業者の倒産、運送業者の廃業が多発しており、景況感是最悪である。燃料の値上げも加わって、ユーザーの購入意欲は一気に減退している。
		公認会計士	取引先の様子	・今月の法人の決算、試算表を前年対比でみると、ここ3か月、4か月のなかで、最も悪い状況になっている。また、建設関係の会社の倒産が増えており、その影響も非常に大きい。
雇用 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	-	-	-
	変わらない	-	-	-
	やや悪く なっている	人材派遣会社（支店長）	求人数の動き	・前年比で1割発注件数が落ちている。
		求人情報誌製作会社（編集者）	雇用形態の様子	・夏のボーナス時期を経ても、前年に比べ、中途転職希望者の動きが非常に鈍く、求人広告を出しても応募が少ない状況がうかがえる。県内移動やUターン等の転職動向が景気と連動して減速している。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・代表的なのは不動産広告や求人広告であるが、全業種に渡って広告出稿を絞っている。建物の建設や新規出店もほとんどなく、じり貧状態である。
職業安定所（職員）		求人数の動き	・新規求人数が前年比14%程度減少している。就職者数も7%ほど減少している。	
職業安定所（職員）	求人数の動き	・6月の新規求人数は、3か月前より、328人、9.3%減少した。		

	民間職業紹介機関（所長）	周辺企業の様子	・企業の夏季賞与が大部分支給されているが、多くの企業が前年割れとなっており、なかには支給が無い企業もある。
	学校〔大学〕 （就職担当）	求人数の動き	・本大学の学生への求人数が減少している。
悪く なっている	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人は2,137人で、前年同月比で22.7%減少した。また、有効求人数でも5,513人で同21.2%の減少であった。雇用形態別では、パートがどの産業でも増加しているが、一般では全般に悪く、サービス業では特に悪くなっている。